### 地域のチカラを応援する遠野健康福祉の里のニュースレター

### 「つをがる・支え合い」たより

令和4年2月号 (第6号)

発行:遠野健康福祉の里

### ディネーターの活動から

### 地域で「つなぐ・つながる」



介護されている方の思いや悩みを共有し、 私たち相談員も 地域の支え合いについて考えていきたいと思います。

・地区の相談員として もっと発信していきたい

TOWN DATA

附馬牛町 (令和4年1月末現在)

世帯数 436世帯

1,128人

522人)

150世帯)

人口

(うち65歳以上人口

(うち高齢者一人世帯

(うち高齢者二人世帯

なことで悩んでいる人と話せて 人で考えていたが、 参加された方から、 同じよう 「今まで

# 年が経過しました

おかげさまで

とうとしています。相談員とし

丸ごと相談員として一年が経

て、訪問を重ねる中で、ある男 性に出会いました。「妻が今ま

めているものを書き出してもら ても、紙になら書けるかもと考 う心掛けました。声に出せなく く何でも言い合える会になるよ 護している男性に絞り、遠慮な だきました。参加者は、妻を介 の専門職の視点からお話をいた 専門職の方や、民生委員をお招 地元デイサービス事業所などの を目的としました。教室には、 う病気の正しい知識を得ること く話をすることと、認知症とい 同じような境遇の方々と遠慮な 催しました。介護者教室では、 考え、「家族介護者教室」を開 認知症についてそれぞれ

うととでした。

安があり仕事も休んでいるとい そんな妻を一人にすることへ不 ながらもどうすることもできず、 変わっていく妻の姿に気が付き た―。」、認知症を発症し、日々 で出来ていたことが出来なくなっ

### ▼思いを分かち合う 家族介護者教室を開

この方と同じような境遇にあ

ぜひお声 何 か

丸ごと相談員が配置されているましたので、各地区センターに やそれを支えているご家族の と思います。また、認知症の ポーターをはじめとする皆さん ことをもっと発信していきたい からなかった。」との声もあり は「どこに相談すればいいか分 も少なくありません。住民から 本音が出て相談に繋がるケース 胸に秘めている方が多く、 私たちの一度の訪問だけでは悩 したいと思った方は、 アについては、地域の認知症サ を重ねるうちに「実は…。」と み、不安、葛藤を言葉に出せず 私にも何かできるかも、 町民の皆さ 訪問 方

### 令和4年2月号もくじ 認知症ケアの重要性(附馬牛町)/P2~3「シリーズ福祉行政の今③」 (福祉課) /

枚のマップから見えてくるもの(上郷町)

知症 ケア 相談員一年目、 の

認

### 訪問から見えてきた現状から 丸ごと相談窓口附馬牛地区担当

菊池

静子

よかった。



## 見足砂切 く 重

画に基づいた、 について触れていきました。 前号では、 地域福祉計画の基本目標と事業計 「新たな地域支え合い」 の内容

今年度からの取組についてご紹介します。 今回は、新たな地域支え合いを推進していく

### 重層的支援体制整備事業(全体) 相談支援 世代や属性を超えた相談を 受け止め、必要な機関につな 観光 継続的な伴走による 多文化 支援 多分野協働の 若年者 ブラットフォーム 相談支援機関B 支援 地方創生 まちづくり 保健·医療 相談支援機関A 環境 中核の機能を担い、 相談支援関係者へ 相談支援機関C 連携・つなぎ 調整 調整 地域づくりをコーディ ネート 重層的支援会議 地域住民 場や居場所の機能 つながりや参加の支援。 日常の暮らしの中での支え合い 狭間の--ズにも対応す コミュニティ (サークル活動等) る参加支援を強化 居場所をはじめとする多様な 場づくり 居場所 居住支援 参加支援 地域づくりに 向けた支援

## 支援体制整備事業の創設

町村が包括的な支援体制づく りに務めることが規定され、 共生社会の実現のために、 れました。 支援体制整備事業」が創設さ 新たな方策として、 改正されたことに伴い、地域 社会福祉法が平成三〇年に 「重層的 市

関協働事業」、 ②「アウトリーチ等を通じた 継続的支援事業」、 と支援プランの作成を併せた (上図参照) 体的な取組になっています。 重層的支援体制整備事業は、 「包括的相談支援事業」、 ⑤「地域づくり事業」 ④「参加支援 ③「多機

野市、矢巾町の二自治体が手 り組んでおり、県内では、 を挙げています。 援体制整備事業に手を上げ取 遠野市は今年度、 重層的支 遠

## 重層的(じゅうそうてき)

りとなります。

## 「包括的相談支援事業」

ち、 担の整理が必要な事例の場合 適切に支援機関につなぎます。 受け止め、相談内容に応じて ていて、支援する側の役割分 には、多機関協働事業につな なお、受け止めた相談のう さまざまな相談を「丸ごと」 課題が複雑化・複合化し

次の窓口です。 相談支援機関は市 内にある

談者を把握する。

つながりの中から潜在的な相

クや各種会議、

地域住民との

ぎます。

- 丸ごと相談員
- 【障がい者】 【高齢者】市 センター 相談支援事業 地 域包括支援
- 【子育て世帯】子育て世代 包括支援相談窓口 所らいと

て取り組むこととなります。

### 5つの事業を 体的に取り組む

れの事業については、 むこととなっており、 5つの事業を一体的に取り組 重層的支援体制整備事業は

それぞ 次の通

### 「アウトリーチ等を通じ た継続的支援事業」

②支援関係機関とのネットワー 援を届ける。 ①支援が届いていない 指します。この事業は、 外に手を伸ばすという意味を 俗に「アウトリーチ」とは、 人に支

など、本人との「つながり」 向けた支援に力点を置く。 ③本人との信頼関係の構築に る、丸ごと相談員の活動とし つくりを進めていくためもの 地域の身近な相談員であ

受け止める総合相談体制を整 機関につなぐことで、 地域住民に対して、「丸ごと」 には、問題やニーズを抱える 化したニーズに対応するため ととを表しています。 した支援が展開されるという 方向性や支援の役割が整理さ この事業は、 各相談窓口の機能を活か 相談内容に応じた支援 複雜化•複 支援の

|層的支援体制整備事業について~

### 多機関協働事業

理するものとなっています。 化援 者それぞれの役割分担を重 プランを用いてを確認します。 と割分担や支援の方向性を 支援会議を開催して、 向 整を図り、 1・複合化した事例に対する を行うものではなく、 「支援プラン」は、支援 機関協働事 性を決めたうえで、 人・世帯に対して 整備事 支援関係機関 業の 業は、 大切な事業 中核を担 重層的 個別 支援 支援層 複 0 整 0 雜支

### 参加支援事業\_

(下図参照)

社会福: 行います。 とマッチングさせ、 るなど、 いニーズに対して、 つながりに向けた参加支援 源(地域における居場所、一ズに対して、地域の社的支援では対応しきれな 祉施設など)を活用す その人に合った資源 社会との

他者とのコミュニケーション 想定しています。 に不安を感じている人などを なお、 引きこもり状態の人や 国では支援対象者と

### 地域づくり事業

の既 境整備を行うことを目的 な地域活動が生まれやすい 取り組みを活かしつつ、多 存の地域づくり関係の事業 域づくりに向けた事業は、

を把握したうえで、 主に、 地

学びの機会を生み出す域を中心として交流 地域で実施されている個別の することと、 きる場や居場所の整備を支援性を超えて住民同士が交流で 活動や人 をコーディネー 域にある社会資源 住民に身近な圏 世代や属 すために • 参加 •

支援 支援 にあたってい 共助の基盤づくり事業がこれ 業 高 生活] 子育てでは、 拠 地域活動支援センター 体制整備事 齢 (通いの 点事業、 者では、 困窮者支援等ための 、ます。 場など) 業、 生活困窮者で 地域子育て 般 障がいで 介 〒 護 生活 事

### 窓口相談 地域包括センター ・相談支援事業所 子育て関係(母子保健子育て包括支援センタ・ 自立生活相談窓口 相談支援事業所(障がい者) 健康福祉の里など 守秘義務を課して本 複合化・複雑化した事例 人同意なくても検討 可能。 ケース共有会議 (市支援会議) 窓口相談からの課題があるケースの共有 支援調整開始 多機関協働事業へつなげるかの検討 多機関による 課題が複雑化・複合化した事例等に関して、関係者や関係 支援が必要 機関の役割を整理、支援の方向性を示す。 ※市社会福祉協議会へ委託 ・プランの適切性の協議 ・プランの共有 ・プラン終結時等の評価 支援プラン 重層的支援会議 ・社会資源の充足状況の把握と開発に向けた検討 各支援関係者がチ -ムー体となって必要な支援を行います 地域の支え合い 住まい 介護 就労支援 教育・学校 生活困窮 消費者 障がい者 子育で

○厚生労働省資料資料より

- ・重層的支援会議を開催して支援の方向性を決め、役割分担を支援プランに基づいて確認し ます。
- 介護保険の地域ケア会議など、既にある多様な会議体を活用することもできます。

社会参. な活動や事業を一体的に把握て、現在取り組んでいる様々 談支 りとなりますが、さしあたっ てとなっています。したがっ広範囲にわたる事業の組み立 すること、 てできることからの取り掛か 人援体制 多加**、** 地 政、 域づくり支援と 民 間企 いきます。

この事業を 進めていくために

ができることを

のことから、 を構築しながら、 包 括的 な お互いが知り、地域それぞれが 域住! 地

たな地域支えあい」を進 がつながり、 づくりを活かして、 せていきます。 を強みとして、 いる「丸ごと相談員」 ておくことが大切と考えて これまで培われてきた地 民と近い立場にあること  $\boxtimes$ センターに配置され 支えあう、 つながりを持っ 活動を充実さ 人と人と 「新 め 地 域 7

(支えあい支援担当)

事 業 名	対象	主 な 内 容
住民主体の通いの場の 開催支援 (地域介護予防支援事業)	高齢者	身近な地域(集会所など)に週1回程度集まり、 住民が主体となって体操などの介護予防活動を 支援します
生活支援コーディネー ターの設置 (生活支援体制整備事業)	高齢者	高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進するためのコーディネーターを設置します
地域活動支援センター の運営費補助 (地域活動支援センター事業)	障がい 者	地域で暮らす障がい(身体・精神・知的)を抱 えている方の日常生活や社会生活をサポートす る支援機関です
地域子育で支援センター 運営業務委託 (地域の子育で支援拠点事業)	子育て 世帯	遠野市地域子育て支援センター「まなざし」と「子ども本の森遠野」は、ご家庭で子育てをしている親子が遊んだり、子育てに関する相談や育児についての情報を知りたい時などに利用できる施設です
市民交流サロン「ちょ ボラ」の運営費補助 (生活困窮者支援のため の共助の基盤づくり事業)	経済的 にお困 りの方	市民交流サロン「ちょボラ」は、誰もが身近な 地域で安心して生活をおくることができるよう、 地域住民相互の支え合い活動をの活性化を図る ことで、地域全体で支える共助の基盤づくりを推 進する取り組みを行っています

3

### 生活支援コーディネーターの活動から

### 地域で「つなぐ・つながる」⑨

## 清水川自治会からスタート・上郷町のマップづくりを

まるごと相談員の業務の一つまるごと相談員の業務の一つまるのマップづくり」がに「支え合いマップづくり」がに「支え合いマップづくり」がに「支え合いマップづくり」がに「支え合いマップづくりには、センます。今回のマップづくりには、自

砂・浸水ハザードマップを参考とし、避難支援と糸 ついて確認しながら作業を進めています。

「支え合いマップづくり」の「支え合いマップづくり」の「支え合いマップづくり」のまと、地元住制などの話題になると、地元住制などの話題になると、地元住まる避難支援者を含んだ支援体のが担える危機感、空き家情報

書きこんでいきました。 頃気になることなどをマップに参加し、それぞれの役割から日

### 避難支援をテーマに・地域の特徴を意識して

ました。 マップづくりが進むにつれて、 マップづくりが進むにつれて、 なの実態、将来清水川地区地域 域の実態、将来清水川地区地域 域の実態、将来清水川地区地域 がどのように変化していくのか、 といった話が自然に発生してい といった話が自然に発生してい といった話が自然に発生してい といった話が自然に発生してい

### TOWN DATA

上郷町 一(令和4年1月末現在)人 口 2,358人

世帯数 983世帯

(うち65歳以上人口 1,100人)

(うち高齢者一人世帯 235世帯) (うち高齢者二人世帯 312世帯)

## 新体制で取り組むために▼行政区再編を踏まえ、

枚のマップから見えてくるもの

清水川自治会のマップづくりから

丸ごと相談窓口上郷地区担当

谷地

信弥

りました。 せざるを得なくなり、この説明 きしたらよいか考えていた矢先、 エリア箇所説明会」を抱き合わ を高める意義のある総会にした の「支え合いマップづくり」を 会は次年度以降に持ち越しとな 止するため、自治会総会を中止 コロナウイルスの感染拡大を防 いたので、どのような方をお招 せ開催したいとの要請をいただ い。」という意向から、「危険 総会開催を予定しており、 清水川自治会は三月に自治会 「防災に対する住民意識 · 今回

できた会になりました。できた会になりました。との度の行政区再編では、清との方が、いるとの発言もあるようですが、いるとの発言もあるようですが、いるとの発言もあるようですが、いるとの発言もあるようですが、いるとの発言もあるようですが、いるとの度の行政区再編では、清との度の行政区再編では、清

## ▼ピア・サポーターについて

考え方が用いられています。では、「ピア・サポート」という行われました。このような集まり介護されている方を中心に交流が介護されている方と中心に交流が交流会(1ページ)では、家族を対馬牛町で行われた家族介護者

とで、 peer)とは仲間を意味しています。職場の同僚もピアです。 また、サポートとは、支援することを意味していますが、専門家に とを意味していますが、専門家に とを意味していますが、専門家に とを意味していますが、専門家に とを意味していますが、専門家に とが、自分で解決する力を持って いる」、「人は実際に人を支援する もが、自分で解決する力を持って いる」、「人は実際に人を支援する もが、自分で解決する力を持って いる」、「人は実際に人を支援する もが、自分で解決する力を持って いる」、「人は実際に人を支援する もが、自分で解決する力を持って いる」、「とは仲間を意味し という考え方に

在でもあるということになります。といっことから、同じ状況にある方々(ここでは仲間)が集い、おちの、情報を共有したり、参感したり、情報を共有したり、参感したり、情報を共有したり、参感したり、情報を共有したり、参考にしたりすることが個々の支援をサポートを受けることが個々の支援ということで、共口がよいできる存在であり、同じ状況にあるこのことから、同じ状況にあるこのことから、同じ状況にあるこのことから、同じ状況にある

くり一部引用) (日本サポート学会ホームページ